

専修寺の伽藍(境内の建物)は、正保2(1645)年の大火による再建をきっかけに順次建立されました。津藩から土地の寄進を受け、大幅に寺領を拡大した上で、最初に伝統的な和様を基調とした御影堂の建設が始まり、寛文6(1666)年に落成します。その後も伽藍の整備が続けられ、寛延元年(1748)年には鎌倉時代に伝来した禅宗様と呼ばれる様式の如来堂が完成しました。

今回の答申にあたり、御影堂は日本における寺院建築の発展を示す壮大かつ壮麗な大型仏堂として、如来堂は門信徒の寄進で建てられた我が国最大級の近世禅宗様仏堂として、いずれも近世における大規模な寺院建築として高く評価されています。

国宝となる御影堂・如来堂の他にも、専修寺には昭和28年に国宝に指定された親鸞直筆の書跡「西方指南抄」「三帖和讃」が所蔵されており、境内には平成25年に一括して国の重要文化財に指定された唐門・山門・御廟拝堂・御廟唐門及び透塀等の11棟の建物など、数多くの文化財があります。

このような世界に誇る歴史的建造物が間近に見られる専修寺と、その周りに広がる一身田寺内町を、この機会にゆっくり散策してみたいはいかがでしょうか。

専修寺境内の国の重要文化財

